

***西はりま天文台にあった野辺山太陽電波観測所のアンテナの一つ**

野辺山太陽電波観測所が開所されたのは1969年のことであった。筆者は開所して間もない野辺山太陽電波観測所を尋ねたことがある。その頃の観測所の光景は写真1、2のようであった。並んでいるアンテナは160MHz太陽電波干渉計である。干渉計の電波アンテナ群は広大な信州大学農場を借りた敷地に展開されていた。



写真1



写真2

観測所を訪ねたのは、組合の執行委員としてであった。観測所の生活の厳しさを視察する目的だったが、観測所の宿舎は現地の建築工事会社ではなく、東京の業者が建設したため、水道などの配管のノウハウを知らずに建設したため、下水管が詰まり風呂桶の水が抜けず風呂桶の底まで凍った大きな氷を見せられたことを覚えている。風呂は春になるまで

使えないとのことであった。これら写真1、2の開所当時のアンテナの役目は終わり、現在では電波ヘリオグラフに置き換わっている（写真3）。



写真3 現在の野辺山太陽電波観測所

2009年に野辺山太陽電波観測所を訪れた際、写真1、2のアンテナについていた名盤が残されていたものを写真に撮った（写真4）。これらのアンテナの一つが野辺山に残されてモニュメントとしてあったように思うがその時のアルバムに出て来ない。



写真4 野辺山太陽電波観測所にあった名盤

2012年12月に、アーカイブ室の調査で西はりま天文台を尋ねた。驚いたことに西はりま天文台の入口に写真1、2のアンテナの一つがモニュメント（写真6）として立っていたのである。驚いた！筆者以外にも博物館ではなく、古い望遠鏡の類を収蔵している人がいた。写真5は野辺山にあった頃の同型のアンテナの写真である。

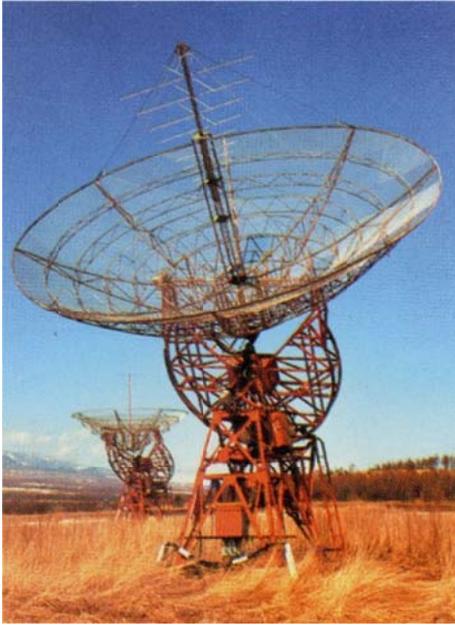


写真5 野辺山時代のアンテナ



写真6 西はりま天文台にあった野辺山のアンテナ

西はりま天文台の入口にあったアンテナにも名盤があった（写真7）。当然ながら写真4と同じものである。



写真7 西はりま天文台入口のアンテナの名盤

西はりま天文台には上松にあった京都大学の1m赤外線望遠鏡も収蔵されていた。この件は稿を改めて紹介する。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp